

南丹の歴史・文化を語り継ぐものたち

南丹という地は文化の宝庫。それらの文化はいかにして生まれ、今を生きるわれわれに何を語りかけるのか。多くの人々の心が守り続けてきた、数々の文化財・文化遺産。南丹文化の特性が生きるこれら宝ものを、次世代に語り継ぐことがわたしたちの使命です。



【園部城跡】(園部町)
元和5年(1619)～元和7年(1621)の2年間で築城。当時は、園部川、半田川も含めた南北600m、東西400mの外堀に囲まれた園部城の跡地で現在は府立園部高校と園部高校附属中学校がある。



【普濟寺観音堂】(園部町)
平安期の草創とも足利尊氏の創建ともいわれる。国の重要文化財である中世禅宗様建築の観音堂は府内屈指のもの。堂内には桃山時代作の千種姫像がある。



【九品寺】(園部町)
弘法大師が開祖といわれる。開山は白河院で、永保年間(1018～83)に院自ら伽藍を建立。九品安樂の浄土と慕われ、鎮護国家の道場として栄える。



【生身天満宮】(園部町)
延喜元年(901)、太宰府に左遷された菅原道真公を生祠として奉斎したのがはじまりといわれる最古の天満宮。一間社流造の本殿は江戸中期の秀作。



【小出吉親像】(園部町・徳雲寺蔵)
元和5年(1619)、但馬国出石より転封となり、園部に入部。地元有力氏族小出氏のもとに身を寄せ、園部藩の成立に尽力した小出吉親の像。



【京都帝釈天】(八木町)
宝亀11年(780)に和気清麻呂が建立し、弘法大師によって伽藍が整えられたといわれている。約650mの参道には108つの鐘が並んでいる。



【十六羅漢】(八木町)
八木町清源寺。ここに残る木喰五行明満(木喰上人作)の十六羅漢は、全国に数ある木喰羅漢像の中でも最高傑作といわれる微笑仏。



【龍興寺】(八木町)
京都三龍のひとつ。臨済宗妙心寺派の名刹で、本堂東側には切妻造椽瓦葺のこじんまりとした鐘楼がある。



【内藤ジョアン顕彰碑】(八木町)
キリシタン武将として高山右近とともに活躍した内藤ジョアンの偉業をたたえて、城山のふもとに建てられた顕彰碑。



【かやぶきの里】(美山町)
約50戸の集落のうち38戸がかやぶき屋根。伝統的なかやぶきの技法とともに継承された歴史的景観が評価され、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。



【石田家】(美山町)
慶安3年(1650)の建造といわれる日本最古の農家住宅。「北山型」住宅の原型の残る貴重な建物として、昭和47年に国の重要文化財に指定。



【八幡神社】(美山町)
延久3年(1067)に創建された、旧知井九カ村の村社として応神天皇を祀る。丹波地方、江戸中期以降の装飾を極めた社殿は府指定の文化財。



【西光寺】(八木町)
市指定の文化財である本堂のほか、念仏主体の典型が伝承されているとして府の無形民俗文化財に指定されている六斎念仏が有名。



【かやぶき音楽堂】(日吉町)
世界的ピアノデュオ、サイラー夫妻が移築・建造したかやぶき屋根のコンサートホール。初夏と秋にコンサートを開催。国登録有形文化財。



【西乗寺】(美山町)
天文20年(1551)に開かれた西乗寺内に祭られた木造阿彌陀如来と両脇侍座像の三尊佛(重要文化財)は火伏の仏様として地元民の信仰を集めている。



【道相神社】(美山町)
木梨頼皇子が神武天皇と五瀬命を祀って軽野神社を創建したことから始まる。応永15年(1408)の火災により、現在の社殿は文政5年(1822)に改築。



【歓楽寺】(美山町)
延暦年間(728～806)、桓武天皇の病氣平癒を祈願したところ、3日で回復。それ以降、天皇の勅願所として歓楽寺の寺号を受けたという。



【普門院の懸仏】(日吉町)
立円形の中に仏像を現したもので、普門院に伝わる懸仏は、銅版鏡を含め139面にもほり、中世の信仰資料として注目すべきものである。



【木造毘沙門立像】(日吉町)
如意寺の本堂中ノ門に本尊地藏菩薩像の左脇侍として安置されている立像で、室町時代作。



【多治神社】(日吉町)
慶雲年間(704～708)の創祀とも、天智天皇第3皇子田原左大臣の勧請ともいわれる。社殿は18世紀中期の二間社流造。「御田」や「カッコスリ」が有名。



【海老谷玉岩地藏】(日吉町)
京と若狭を結ぶ若狭街道の要所・海老谷の山深い石垣の上に立つ八百比丘尼ゆかりの玉岩地藏(江戸時代)。